

1・2学年PTA用「進路資料」

1・2学年PTA集会用に、3年生に配布するPTA資料を再編集してこの資料を作成しました。お子様が3年生に進級した後に改めて、最新の情報及び詳しい資料をお伝えする予定です。

はじめに

進路について、ご家庭ごとにいろいろな考えをお持ちだと思います。場合によっては、ご家族の中でも意見が分かれることもあると思います。また、進路は、子ども(お子様)をとりまくさまざまな現実、例えば、学習面での実力や経済的な状況などによっても、大きく左右されると思います。

そのような中で、これまでの義務教育という枠のなかで育てられてきた子ども達が、初めて自分の力で進路選択、進路希望の実現に臨みます。「親」として、「教師」として、「人生の先輩」として、適切な助言や援助を与え、子ども達をバックアップしていきたいものです。進路を考えるにあたっての「考え方」や「注意点」を、簡単にですがまとめて掲載しました。参考にしていただければ幸いです。

進路選択にあたって

● 将来を見つめさせ、子ども自身の意思で進路を決定させる

進路を考えるにあたって大切なことは、子ども達一人一人が、最終的には『自分の意思と責任において、自分に最もふさわしい進路を選択し、決定したのだ』という自覚を持たせることです。

どんな進路を選択したとしても、決して楽な道のりばかりではないでしょう。厳しい試練にぶつかった時、それを乗り越える「前向きな力」は、「自分で決めた道だから」という裏付けがあってこそ生まれるものだと思います。

しかし、進路選択に際し、子ども達の不安な気持ちを未消化のまましていると、「将来のことなんかはわからない・・・」「今が楽しければいい・・・」「将来はどうにかなるさ・・・」「別にどうでもいい・・・」など、刹那的・短絡的な考えに流されがちになります。

それらを解消し、的確に進路を選択するためには、家庭でよく相談をしておくことが大切です。また、担任の先生は、ひとりひとりの性格や物事への取り組み方、そして将来を見通してアドバイスをしています。担任の先生ともコミュニケーションをとり、家庭での様子など様々な話をしてほしいものです。

● 子ども自身が自分を知り、子ども自身にあった進路を

就職するにも進学するにも、子どもが自分自身をあらゆる角度から見つめ、自分を客観的に知ることが大切です。その上で、自分の立場や置かれている環境を考えて、進路を決定していきます。単に9教科の評定で算出される「ランク」や、テストの点数だけで決定するものではありません。

・子どもの能力や適性にあっているか

高校への進学は合格することがゴールではありません。合格しても、普通科であれば授業についていけない、職業科であれば実習授業でうまくいかないなど、自分の能力や適性に合っていないと楽しい高校生活を過ごすことが難しくなるかもしれません。そうすると、気持ちに余裕がなくなり、有意義な3年間を過ごすことはできないでしょう。多少厳しい状況の方が力を出せるタイプなのか、余裕のある方が輝くタイプなのか、やると決めたら最後までやり抜くタイプなのかも大切になってきます。

また、高校は中学校以上に「校風」というものに特徴があります。比較的自由な校風ではあるが授業は大変厳しい学校、生活指導は厳しいが授業はとても親身になって個別にもよく教えてくれる学校、スポーツや文化活動に特に力を入れ一人ひとりの個性を伸ばしていこうとする学校などさまざまです。子ども自身の性格や目指しているものとあっているかを考えて選択する必要があります。

・子どもの将来の目標と照らし合わせる

自分の将来について、目標や理想を持っているかどうかも大切なことです。高校は子どもの未来への通過点です。将来、どんな仕事につきたいのか、どんな生き方をしたいのかを考えさせ、それにふさわしい高校を選ぶことが大切です。

また、将来の「自分像」を見出せず、進学か就職かと思い悩んでいる子どももいます。そんな子どもには「進学」を勧めます。それは、上級学校に進学すると、教科の勉強以外にもいろいろと経験することでき、視野を広げることができるからです。友人と将来を語りあったり、部活動や生徒会活動を通じて自分を磨いていく中で、将来の「自分像」を発見できると思います。そのような「目的」を持って進路を考えることが大切なのです。高校はゴールではありません。長い人生のひとつの通過点なのです。

中学校においても、進路相談(懇談)は受験校決定一辺倒ではなく、将来の目標も視野に入れることが大切であると考えています。その高校への進学は、将来の目標に続く「何本かの道の一つ」と考えさせていくことが、子ども達の心理的な負担を軽くすると同時に、目標に向かって進むんだという意識をしっかりとさせることにつながります。

したがって、われわれ大人は『進路を見つめることは、自分の人生を真剣に考えることにほかならない』ということを教えなければならないと考えます。そうすることで子ども達が、自分自身を厳しく見つめ、確固たる考えをもって行動できるようになるのだと思います。進路に向けての取り組みが、「どのような職業につきたいか。」「どのような生き方をしたいか。」「どのように社会と関わって生活していきたいか。」を考えられる機会になるように願っています。

高校進学を考えるにあたって

● 進学の目的をはっきりさせる

高校入学がゴールではありません。高校で何を学び、どのような経験を積んでいくのかはとても大切なことです。大学への進学を考えているのであれば、大学進学率の高い高校で質の高い学習をしたい、高校卒業後に就職を考えているのであれば、就職率が高く専門的な技能も身につけられる職業科の学校など、明確な目的がほしいところです。

● 子どもの能力や適性にあっているか

・合格できるのか

これが一番心配なところかも知れません。担任の先生とも十分にご相談ください。また、ぎりぎりのところで合格できたとしても、その中でやっていけるのかどうかということも考える必要があります。

・その高校は自分にあっているのか

「令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査(北海道)」によると、公立高校の中途退学者は、全体で1,051人(高校在籍者の1.2%)にのぼりました。内訳は、全日制が709人、定時制が202人、通信制が140人であり、その多くは1年生です。退学の理由は、「進路の変更」が57.5%、「学校生活・学業不適応」が30.1%の順となっています。これらのことは、進学に対する目的意識が不十分だったことが原因と考えられます。そうならないためにも進路を決定する前に、高校の説明会に参加したり、希望する高校の学習や生活の様子、生徒会活動や部活動、行事や校風などを調べ検討しておく必要があります。

● 通学方法はどうか

家を何時に出て、何時に学校について、何時に帰宅できるのか。バスやJR・地下鉄の便はどうか。部活動はできるのか。交通費の負担は大きくないか。どれも大きな問題です。実際に交通機関を利用して、高校まで行ってみることも大切です。

● 経費はどのくらいかかるのか

学校への納入金は、入学金や授業料のほかに、教科書代、制服代、交通費、実習費、修学旅行の積立金、部活動の用具・ユニホーム代など、募集要項には記載されていないものが多くあります。経済的な準備も必要です。

公立高校について

1 公立高校の特色

(1) 公立高校とは

北海道が設置している道立高等学校と、市町村が設置している市町村立高等学校があり、あわせて公立高校と言っています。入試日は統一されていて、入学試験問題も共通です。

(2) 学年制・単位制とは

① 全日制普通科単位制の特色

国語、数学など、教育を中心として、興味・関心や進路希望等に応じた多様な選択科目が開設されています。	少人数授業や習熟度別学習などにより、生徒の実態や進路希望等に応じたきめ細かな学習指導が可能です。	学年による教育課程の区分を設けず、3年間で決められた単位数を習得すれば卒業が認められます。
---	--	---

② 学年制と単位制の比較

	教育課程の区分	時間割	授業展開	卒業の認定
学年制	学年による教育課程の区分があり、進級が認められなければ原級留置(留年)になります。	学校で決めた時間割に従って授業を受けます。	同じ学年の生徒だけの授業です。	学年ごとに決められた単位数を習得した場合に進級の認定が行われ、3学年が修了した段階で卒業が認められます。
単位制	学年による教育課程の区分がないので、基本的に、原級留置(留年)はありません。	設定された科目から自分で選択して作った時間割により授業を受けます。	異なる年次の生徒と一緒に学ぶ授業もあります。	卒業までに決められた単位数を習得すれば卒業が認められます。

③ 札幌市内及び近郊の普通科単位制の公立高校

道立	札幌手稲・札幌白石・札幌白陵・北広島・大麻・札幌東陵・札幌英藍・有朋(定時制)
札幌市立	札幌旭丘・札幌清田・札幌藻岩・札幌大通(定時制)

(3) 普通科フィールド制

① 概要

平成20年度から始まった北海道独自の新しいシステムで、発展的な内容を扱った科目や、情報、福祉、環境などの科目のまとまりをフィールドとして複数設定し、進路希望等に応じて自分でフィールドを選択して学習します。

② 札幌市内及び近郊の普通科フィールド制の公立高校

札幌あすかぜ・札幌平岡	※2025(令和7)年度に普通科へ転換予定
-------------	-----------------------

(4) 総合学科

① 概要

将来の生き方や就きたい職業について、ガイダンスや体験的な学習などを通してじっくり考えながら学んでいき、望ましい勤労観・職業観を身に付けるとともに、各自で必要な科目を選択して進学や就職などの進路実現を目指します。

② 札幌市内及び近郊の総合学科の公立高校

石狩翔陽・札幌厚別・千歳北陽	※千歳北陽は2022年4月～総合学科に転科
----------------	-----------------------

(5)「アンビシャスクール」

①概要

生徒が自己の生き方を考えながら、「分かる喜び」を感じたり、「もっと学びたいという気持ち」を高めたりするため、学ぶ意欲に応える学習指導により、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や社会生活や職業生活に必

要な基本的な能力や態度の育成に重点を置いた学校

②札幌市内及び近郊の「アンビシャスクール」の公立高校

野幌(普通科)・千歳北陽(総合学科)

(6)定時制

ほとんどが夜間定時制で、週当たり20単位時間の授業時数で勉強し、修業年限は4年ですが、昼間定時制や修業年限が3年の高校もあります。また、有朋高校や午前、午後、夜間の3つの部をもつ札幌大通高校には、修業年限が3年以上の単位制による定時制の課程が設置されています。

①札幌市内の定時制公立高校

道立	札幌東	札幌南	札幌月寒	札幌北	札幌西	札幌工業	札幌琴似工業	有朋
札幌市立	札幌大通							

(7)通信制

自学自習を基本とし、仕事などで疲れていても、机に向かう努力と実行力が大切です。卒業までにはたいへんな根気が必要です。有朋高校に設置されています。

①通信制の道内公立高校

有 朋

(8)通学区域

全日制普通科の高校では、保護者の住所により通学区域が決まっています。札幌市は、道立高校だと石狩学区が通学区域となり、制限を受けずに受検できます。石狩学区以外の高校を受検する際は、学区外就学制限枠の受けることになります。

また、道立の全日制課程の専門学科、職業学科、総合学科、定時制課程及び通信制課程では、全道どの地域からも出願できます。

札幌市立の全日制の高校は、通学区域が札幌市全域となっています。(含む札幌啓北商業)

2 公立高校入試について

(1)令和6(2023)年度 入試日程(現3年生の入試日程)

推薦入学面接日	令和6年2月13日(火)
学力検査日	令和6年3月5日(火)
追検査日	令和6年3月13日(水)
合格発表日	令和6年3月18日(月)

(2)全日制の一般選抜の合否の判定資料

①個人調査書に記載された内容

学習点の他に選択教科の評定や総合的な学習の記録、特別活動の記録などのさまざまな内容

②学力検査の成績

5教科各100点満点(英語の中には、聞き取りテストが30~35%程度含まれます)、合計500点満点。解答時間は各50分。一昨年(現在の高校2年生)より裁量問題・標準問題の区別がなくなり、現在の形になっています。なお高校の裁量で、傾斜配点(特定教科の得点を1.5~2倍する)を行うことができます。

③面接、実技を行った場合はその結果

④健康診断書

体育に関する学科への出願者のみ提出。

(3)全日制の一般選抜の方法

- ①募集人員の70%程度は、個人調査書の「各教科の評定」の記録と学力検査の成績を、同等に取り扱って選抜されます。
- ②募集人員の15%程度は、個人調査書の内容などを重視して選抜されます。
- ③募集人員の15%程度は、学力検査の結果を重視して選抜されます。

(4)定時制の一般選抜の合否の判定資料

- ①個人調査書に記載された内容
 - ②面接の結果 すべての定時制高校で面接が行われます。
- ※市立札幌大通高校は、学力検査と面接で合否が判定されます。

(5)入学選抜に用いられる学習点(内申点)について

学習点(内申点)とは、中学校3年間の学習成績を数量化したもので、中学校での各学年末の通知表の評定により算出されます。満点は、315点で、最低点は63点です。

①学習点の計算方法

(学習点)

$$=(1\text{学年の学年末評定の合計})\times 2+(2\text{学年の学年末評定の合計})\times 2+(3\text{学年の学年末評定})\times 3$$

※「仮の学習点」の求め方

1年時	1年の最新の評定の合計×7＝
2年時	1年の学年末評定の合計×2＋2年の最新の評定の合計×5＝

②学習点とランクの関係について

一般的に、算出された学習点を満点から20点ごとにアルファベットで分類したものを「ランク」と呼んでいます。 ※「ランク」は、便宜的に使われる言葉です。

Aランク	315～296	Hランク	175～156
Bランク	295～276	Iランク	155～136
Cランク	275～256	Jランク	135～116
Dランク	255～236	Kランク	115～ 96
Eランク	235～216	Lランク	95～ 76
Fランク	215～196	Mランク	75～ 63
Gランク	195～176	×	×

※オール5＝315 オール4＝252 オール3＝189 オール2＝126 オール1＝63

(6)公立高校の入学選抜に用いられる学力点(当日点)について

国語、社会、数学、理科、英語の5教科。各教科100点満点で、合計500点満点。英語には、リスニング問題が含まれます。時間は、各教科とも50分です。高校の裁量で、傾斜配点(特定教科の得点を1.5～2倍する)を行えます。

①昨年度、札幌市内及び近郊で高校の裁量による傾斜配点に基づく学力点の満点の変更を行った高校

札幌北	普通科	数学・英語を各2.0倍
札幌国際情報高校	国際文化	英語を2.0倍
札幌啓成高校	理数科	数学・理科・英語を各1.5倍
千歳高校	国際教養科	英語を1.5倍
札幌旭丘高校	数理データサイエンス	数学・理科を2.0倍、英語を1.5倍
札幌清田高校	普通科グローバルコース	英語を2.0倍

(7) 推薦選抜について

一般選抜の他に、自己推薦選抜というものがあります。昨年度から、公立高校では、学校長推薦が必要なくなり、すべて自己推薦となりました。今春の入学者選抜の手引きには、出願資格として、『出願先高等学校のスクール・ポリシーを理解し、自らを各学校が示す「入学者の受入れに関する方針」に合うと考えている者で、出願する動機及び理由が明確であるもの』(定時制では、さらに『自主的に学習できる強い意志を持つもの』が追加されていました)とありました。

① 推薦選抜を実施する学科と入学枠 (今春のもので、変更があるかもしれません。)

イ 全日制普通科(本来学区の高校に限り出願できる)

- ・札幌国際情報高校と単位制による普通科の高校では、必ず実施されます。
- ・その他の全日制普通科の高校では、高校の裁量で実施の有無を決めます。
- ・入学枠は、募集人員の10～40%程度の範囲内で、各高校が決定します。ただし、札幌市立高校の全日制普通科専門コースは、募集人員の50%程度です。

ロ 全日制のその他の学科

- ・専門教育を主とする学科(工業に関する学科、商業に関する学科など)や総合学科の高校では必ず実施されます。
- ・入学枠は、農業に関する学科と水産に関する学科では、募集人員の50～90%程度の範囲内で、各高校が決定します。その他の学科では、30～50%程度です。

ニ 定時制の高等学校

高校の裁量で実施の有無を決めます。入学枠は、募集定員の30%程度です。

② 選抜方法 … 以下の資料を総合的に評価して合格内定者が決定されます。

- イ 出願者から提出された自己推薦書
- ロ 中学校長から提出された個人調査書、健康診断書
- ハ 面接の結果
- ニ 英語の聞き取りテスト、英語による問答、実技、作文などを実施した場合は、その結果

高等専門学校について(略称:高専)

1. 出願できる学科と特色

(1) 全国に国公立の高等専門学校があり、学区規制はありません。原則出願は1校だけです。ただし、道内4校による独自の併願制があります。

(2) 特色

- ① 5年間の一貫した教育により、高度の専門技術者を養成する高等教育機関で、短大と同じく「準学士」の称号が与えられます。
- ② 工業高専は卒業後、さらに高度の教育を希望する者に対して高等専攻科(2年制)があり、技術科学大学(長岡・豊橋)や国公立大学工学部などへの編入も可能です。

(3) 道内の高専・学科について

- 苫小牧工業高等専門学校・・・創造工学科(※2年生から5つの専門系に分かれます)
- 旭川工業高等専門学校・・・機械システム工学科・電気情報工学科・システム制御情報工学科・物質化学工学科
- 函館工業高等専門学校・・・生産システム工学科・物質環境工学科・社会基盤工学科
- 釧路工業高等専門学校・・・創造工学科(※2年生から3つの専門コースに分かれます)

(4) その他特記事項

- ・平成30年度入試より、道内4高専の併願が可能となっています。願書に4高専の学科を記入し、試験を受けますが、合格した高専に必ず行くことが条件となります。

私立高校について

高校の授業料の無償化により、公立高校との費用の格差が縮まったことにより、私立高校を第1志望とする生徒が増えています。公立高校とは違った独自の教育カリキュラムを作成し、進学実績を伸ばしていたり、部活動に力を入れるなど、各校とも特色のある教育を実践しています。昔のように、「私立は公立の滑り止め」の時代ではありません。私立高校も公立高校同様に真剣に考える必要があります。

(1) 出願できる高校

私立高校には男子校・女子校・男女共学校があります。公立高校と違い通学区域の規制はありませんので、全国どこの高校でも出願することができます。また、入試日が異なっていれば、複数の私立高校を受験することもできます。なお、道内の全日制私立高校の一般入試はA日程、B日程のどちらかで実施されることになっているので、最大2校受験することができます。また通信制私立高校は、各高校がそれぞれ入試日を設定しています。

資料 A日程もしくはB日程で一般選抜を行う札幌市内及び近郊の主な全日制私立高校

A日程	令和6年2月15日(木)	北海学園札幌 北海道科学大学 東海大学附属札幌 札幌静修 札幌北斗 札幌光星 札幌新陽 札幌創成 札幌山の手 札幌大谷 札幌日本大学
	令和6年2月15日(木)、16日(金)	北照 小樽明峰
B日程	令和6年2月20日(火)	北海 北星学園大学附属 立命館慶祥 札幌第一 とわの森三愛 札幌龍谷学園 北海道文教大学附属
	令和6年2月20日(火)、21日(水)	北星学園女子 小樽双葉

(2) 学科・コースについて

普通科以外の学科を設置している高校もありますが、ほとんどは普通科です。公立高校と違い、普通科の中にいくつかのコースを設けている学校が多くあります。高校卒業後の目標(進路)にあわせて、難関大学や国公立大学への進学を目指すコース、私立大学への進学を目指すコース、専門学校への進学や就職を目指すコースなどがあります。また、高校が異なると同じ名称のコースであっても、目標やカリキュラムが違う場合があります。

また、進学に力を入れているコースでは、学習時間を確保するために部活動が制限されている場合があります。最近は大高連携に力を入れている学校もあり、その学校独自の取り組みも増えています。入学後に知らなかったとならないように、説明会に参加したり、各高校のホームページなどでしっかりと調べておくことが必要になります。

(3) 受験について

公立高校と異なり、推薦受験・一般受験の他に、単願受験や専願受験という制度があり、ほとんどの私立高校で実施しています。一般受験は、上記A・B日程での受験のことです。例年2月の中旬以降に設定されています。推薦・単願・専願での受験は、ほとんどの学校で1月中旬から1月下旬にかけて行われます。推薦受験は、自己推薦の学校もありますが、今春の入試では、ほとんどが中学校長の推薦を必要としていました。

私立高校は、生活面を重視しているところが多く、「学習成績はもちろん、まじめに努力する生徒を…」という傾向が見られます。そのため、「欠席日数」や「特別活動の記録」なども重視されます。

「単願」受験…希望する1つの学校のみに出願し受験するもので、他の高校は出願も受験もしない受験方法です。合格したら必ず入学することが条件です。

「専願」受験…希望する学校以外へも出願できますが、専願した学校に合格した場合、必ずその高校へ入学しなければならないという条件があります。

※単願受験・専願受験(・推薦受験)は、いずれも一般受験よりも出願期間が早く(冬休み中に手続きをします)、1月中旬から下旬にかけて試験が行われます。その分、合格発表も早く、1月末ごろにほとんどの学校で行われます。一部の高校では、一般受験と同じ日程でも単願受験を行うところがあります。

※冬休み中に出願するため、3年前期までの成績で受験することになります。

(4) 特典制度

ほとんどの私立高校には特待生の制度があります。中学校の学習点で決まるもの、入試得点で決まるもの、その他の条件で決まるものなどいろいろです。各高校により、条件や特典が細かく決められています。説明会や各校のHPなどで、事前に確認してください。

※北海道私立中学高等学校協会のHP (<http://www.doshigaku.jp/>) から道内の全日制私立高等学校各校や一部私立通信制高等学校のHPを見たり、各高等学校の校納金一覧(昨年度のもの)・就学支援(昨年度のもの)などの重要な情報を得ることができます。

(5) 私立通信制高校について

通信制は、原則高校から送られてくる教材をもとに学習し、レポートの作成とスクーリングを通して単位を取得し、進級・卒業するところです。各校ともに特色があり、学校によっては学習場所を確保し、そこに週何回か通学し、学習支援を受けられる所もあります。週5日通学する学校では、全日制の高校とほとんど変わらない高校生活を送れるところもあります。しかし、通学日数によって学費などの費用も変わるため、過去には合格後に費用の高さから入学を断念する残念な事例もあるそうです。しっかりと確認が大切です。

また、近年人気が高まっており、進学者も増えてきています。各高校とも3～4回程度の受験機会を設けていることが多いですが、募集定員に達した場合、予定された受験機会が実施されない場合もあります。早い学校では10月頃から出願を受け付けていたり、年内で定員に達するところもあります。そのため、早めの相談、判断が必要となる場合もあります。

資料 A日程・B日程と関係なく入試選抜を行う札幌市内および近郊の主な通信制私立高校

青森山田高等学校 飛鳥未来高等学校 飛鳥未来きずな高等学校 池上学院高等学校
N高等学校 NHK学園高等学校 鹿島朝日高等学校(札幌) 第一学院高等学校
クラーク記念国際高等学校(札幌) 札幌自由が丘学園三和高等学校 星槎国際高等学校
日本航空高等学校(千歳・札幌) ヒューマンキャンパス高等学校 北海道芸術高等学校
ルネサンス高校 など

※ 小樽双葉、酪農学園大学附属とわの森三愛、札幌静修にも設置されています。

就学支援金について

金銭的な理由で進学できない子供たちがいなくなるように、国や北海道が高校生への支援制度を設けています。いずれも高校入学後に案内があります。詳しくは、インターネットで検索してみてください、

①「高等学校等修学支援金」

年収約910万円未満の世帯が対象で、『全日制私立高校へ進学する場合、授業料を最大で年額39万6千円を上限に支給する』ものです。世帯構成や年収、校種(公立・通信制・高専など)により金額は変わってきますが、全国の約8割の生徒が利用しています。

②「高校生等奨学給付金」について

生活保護世帯、住民税非課税世帯を対象に授業料以外の教育費(教科書費、教材費、学用品費、通学用品費、教科外活動費、生徒会費、PTA会費、入学学用品費、修学旅行費等)を支援する制度です。世帯状況によって給付額は変わります。国公立高校も対象になります。